

出合いを大切に そしてつながろう

平成28年度の「人権作品展」は文化ホール展示室で1月27日～31日に開催し、1,000人近くの方々にご来場いただきました。文化ホールの隣にある、くすのき幼稚園の園児のみなさんも、クラスの先生と一緒に見に来てくれ、「私、もうすぐここの小学校に行くねん。」「わあ、運動会楽しみやね。」と展示している作品を通して、話がはずんでいました。この作品展が、こんなに人と人をつなげ、見た人の心を温かくするんだと、その光景を見て感じました。



また、12月4日(日)、文化ホールにおいて、「市民の集い」を開催し、映画『あん』が上映されました。上映前には「ハンセン病回復者の現在」と題して、加藤めぐみさん(ハンセン病回復者支援センター職員)からお話ししていただきました。さまざまなお話の中で、心無いうわさに直面した時、自分自身どう対応するのか。そんな問いかけを突き付けられた作品でした。



まきずな

第12号
2017年4月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議

フィールドワークに参加して

4月13日(木)、校区人権協フィールドワークに初めて参加しました。当日は良い天気にも恵まれ、午前8時に泉南市役所を後にしました。

最初に訪れたのは、堺市役所。一日、案内して下さい

るボランティアの方が迎えて下さり、東西南北すべて見渡せる21階の展望ロビーに上りました。あいにくの春霞で、遠くは白く霞んでいましたが、阿倍野ハルカスは見つけることができました。ボランティアの方の興味深いお話が次から次へと。「へえー、なるほど」と感心するばかりでした。

次に向かったのは南宋寺。総門をくぐれば想像以上の広さに驚きました。ここは禅と茶道を結んだ拠

点とされ、座禅道場や利休一門の供養塔などがありました。またなぜか徳川家康のお墓がありました。歴史が苦手な私も引き込まれるボランティアの方のお話を聞きつつ仏殿へ。天井には狩野信政筆の「八方睨みの龍」。三六五年前に描かれたそうですが、とてもすばらしかったです。

次は「さかい利晶の杜」。千利休と与謝野晶子のミュージアムです。わび茶を大成した利休と12人の子どもを育て、鉄寛との愛と絆で結ばれた晶子。堺で生まれた二人の偉人に、ただすごいなあと思うばかりでした。

おいしい昼食をいただいたあと、明治5年創業の水野鍛錬所の工房を見学しました。お若い5代目の日本刀や包丁の作り方の説明を聞き、伝統のすばらしさを再認識しました。また「しのぎを削る」「焼き

を入れる」という言葉が鍛冶からきていると教えていただきました。他にも興味深いお話が満載でした。最後に行った堺伝統産業会館では、注染・緞通・お香・刃物・昆布などが展示・販売されていました。広報を見て一人で応募したが、新しい出合いがあり、知らなかったたくさん

のことを教えていただきました。本当に楽しい一日をありがとうございました。(K・S)



テーマ:「見なされる差別」

講師:奥田 均さん(近畿大学人権問題研究所 教授)

平成 28 年 12 月 19 日、泉南市人権啓発講演会が開かれました。奥田先生は、いろいろな課題を提示しながら熱く語られました。

【別表 1】

- ①本人が現在同和地区に住んでいる。
- ②本人が過去に同和地区に住んだことがある。
- ③本人の本籍地が同和地区にある。
- ④本人の出生地が同和地区である。
- ⑤父母あるいは祖父母が同和地区に住んでいる。
- ⑥父母あるいは祖父母の本籍地が同和地区にある。

部落差別はどうして部落出身者差別と言わないのだろう。

障害者差別、女性差別、外国人差別など「者」を対象とした表現である。ここに、大きな課題が隠されているように思います。いっしょに考えてみましょう。

まず、**同和地区出身者(部落出身者)とはだれのことだろうか。**という課題を提示されました。

世間の人が同和地区出身者と判断する理由はいろいろありますが、大阪府

による府民人権意識調査及び近畿大学の学生を対象とした人権意識調査によれば、【別表 1】のよう
な判断理由となっている
ことが分かりました。

このように、**土地・地面・集落が対象となり、不確かな線引きにより、同和地区出身者と見なされていま**
す。

この不合理性に鑑み、運転免許証の記載事項が変更されました。以前は、免許証に「本籍」を明記する項目がありましたが、現在は削除されています。免許証は、身分証明書として用いられることもあり、個人情報
の観点から削除されました。

今日、会場にお越しの方々に質問します。心の中で「はい」「いいえ」と答えてください。

「私は部落出身者だ」

「はい」と答えた人は、何を根拠にそう答えたのですか。

「いいえ」と答えた人は、どうして「いいえ」と言えるのですか。

いずれにしても、明快な答えはないはずです。

では、**見なされる差別がどのように生まれるのでしょ**
う。

たとえば、泉南市に在住の A さんが福岡に引っ越ししました。その引っ越し先が同和地区であったら、A さんは同和地区出身者と見なされ、ひいては部落差別を受ける可能性がうまれてきます。

このような土地差別問題について、大阪府民人権意識調査によれば、「住宅を選ぶとき価格や立地条件など希望に叶っているも、物件が同和地区内である場合、避けることがありますか」という質問に約 5%の人が避けると答えています。

その他、避けようとする内容としては次の【別表 2】のようなものがありま

【別表 2】

- ①同じ町名を避ける⇒町名変更での反対運動
- ②同じ校区を避ける⇒校区変更での反対運動
- ③結婚をさける⇒身元調査 結婚差別

す。

②について、考えてみましょう。校区に同和地区があるかどうかで学校を判断するのではなく、熱心な先生がいらつしやる。本当に子どものことを考えて教育活動をしている。校舎、運動場が安全でのびのびできる環境である。などが大切な視点となります。

親の一存で子どもの幸せを失うような行動は親として避けるべきです。親心をはき違えてはいけません。

このような部落差別の

問題は根深いものがあります。解決のために様々な研修を進めていくことはとても大切なことです。これからは、同時に「差別することは無意味である」と考える感性を養うことが最も大切です。

(砂川校区 清水 真治)

〈参加者の声〉

たいへんわかりやすい例えによって部落差別の無意味さを説明してください。とてもよかったです。

「人間の値打ちは地面では決まらない」という言葉を忘れずに、部落差別のみならず、他の多くの差別についても、基本的な考え方としてもっていきたいと思います。



このコーナーでは、日ごろ何気ない生活の中で、人権が感じられたり、ふっと温かな気持ちになるエピソードを紹介합니다。



ハートプラスマークを知ってください

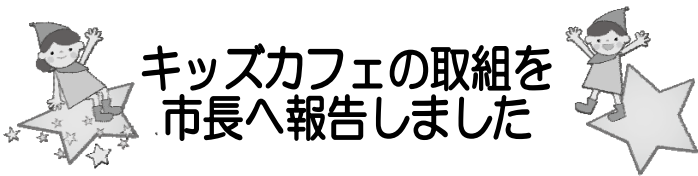
ある時のことでした。何の気なしにテレビを見ていた私の目は、一人の中年女性が話をしている姿に釘付けになってしまったのでした。その時の女性の話の内容は、次のようなことでした。

病院に通うため電車に乗らなければならないのですが、そんな時はなるべく乗客の少ない時間を選びます。空席があったときは、ホソとして座ります。でも空席がなかったときは、どこかに身体をゆだねて立っていなければなりません。それが大変な苦痛なのです。でも自分から「席をゆずって下さい。」とは、とても言うことはできず、目的地に着くまでの何十分かは身体全体に走る痛みで悲鳴をあげたい思いで過ごします。でも最近、朗報を耳にして本当にうれしく思っています。

「ハート・プラス」の意味

身体内部を意味する「ハート」マークに、思いやりの心を「プラス」。身体に病を持つ人は、人を思いやる大切さを知っています。そして周りの人も、心に思いやりのプラスアルファをもってくださることを願います。そんな全ての人の「思いやりの心を増やす」マークが「ハート・プラス」マークです。あなたがどこかでこのマークを目にしたら、私たちがいることを思い出してください。そして、困っていたら手助けをしてください。

NPO 法人ハート・プラスの会



キッズカフェの取組を市長へ報告しました

平成 28 年度は、“子どもの居場所”を考える取組から、子どもたちだけでメニューを決め、調理し、店員さんになる「なかよしカフェ」(キッズカフェ)を 1 日だけオープンしました。事前に用意していたものはすべて売り切れ、大盛況に終わりました。子どもたちの頑張っている姿や、自分たちでやりきった達成感いっぱい笑顔は、周りのおとなたちにも「子どもたちには大きな力がある」ということを気づかせてくれました。

3 月 11 日、教育委員会が担当する子ども会議市長報告会で、キッズカフェのメンバーも一緒に、市長へ報告しました。市長からもお褒めの言葉をいただき、「また違う場所でもオープンしてください。」と激励されました。



なった、「ハートプラス」マークができた、ということとです。私たちのような身体内部に障害を持った人が外出するときには、その「ハートプラス」マークを身体につけていければ、電車に乗った時にそのマークに気づいた人は、きつと席を譲ってくれるに違いないと期待していません。』と話しておられました。

障害者といえ、耳が不

自由な方、目が見えない方、知的障害の方、身体障害の方、その他 e t c : 健康者から見て、目に見える障害を持った方たちのことしか知らなかった私です。このたびのテレビの中で話していた女性の話を聞いて、人の目には見えないけれども、身体の中に難病を抱えている方が世の中には多くいらっしゃることを今更ながらに気づきました。

世の中は各方面において、急速にシステム化が進み、それに連れて人の心は希薄になりがちな近頃です。そんな複雑化してきている社会の中で生きていく私たちですが、そんなこととに惑わされることなく、障害を持っている人も、そうでない人も、お互いの立場を理解し合いながら、明るく楽しい日々を送ることができるようになることを願っています。(真鍋 正子)

校区人権協では、小学校区単位で地域に根ざした人権啓発活動を行っています。毎年、それぞれの校区で小学校やPTAと協力し、校区の集いを開催しています。平成28年度は、市内3校の小学校で、車イステニスで何度もパラリンピックに出場された大前千代子さん（泉南市社会福協議会相談員）にお越しいただき、お話をうかがいました。

「障がいと共に生きて」 講演会に参加して

「今日はすごかった！」帰宅した娘の第一声でした。

10月20日（木）砂川小学校体育館において、パラリンピックに多数の出場経験をお持ちの大前千代子さんの講演会「障がいと共に生きて」が行われました。

まずは、大前さんの迫力のある車イステニスのプレー、続いて陸上・水泳な

ど競技の様子が上映されました。中でも、水泳の映像には、「うわー！すごい」と言うざわめきが聞こえてきました。

大前さんとの打ち合いでは、多くの希望者の中から選ばれた子どもたちが緊張した表情でラケットを握っていました。上手に返せた子、思うように打てずがっかりする子、そして大きな声援を送る子どもたち全員が一つになって楽しみました。

競技用車イスは車輪が

斜めになっており、足と腰をベルトで固定します。間近で見ると子どもたちも初めての子どもたち。あちらこちらから「すごいなあ！形が変わってる。」と興味津々の声が聞こえてきました。実際に車イスに乗せていただき生活すること、

車イステニスをするのがどれだけ大変ですごいことなのか、身をもって体験できたのではないかと思います。

最後に大前さんからメッセージを頂戴しました。

「何かを始める前からダメだ！できない！と決めつけず、何事にもチャレンジしてください。そして、最後まで諦めずに頑張ってください。」

この先さまざまな辛いこと、苦しいことに遭遇したとき、今日の大前さんのプレーとお話しを思い出して一歩前に踏み出してくれること、そして優しい気持ちを持ってくれることを願います。がんばった先に道は開けます。

大前さんの講演会を聞いた児童から感想をいただきました。

○テニス用の車イスとふつうの車イスのちがいとくわしい説明がよくわかりました。ラリーが続いてよかったです。車イスにのって、あんなにせいかくにボールを打てるのはすごいと思いました。

（砂川小学校 橋爪智咲）

○ぼくは大前さんとテニスができて、とても良かったです。あまり続かなかったけど楽しかったです。また会ったらいっしょにテニスをしてください。ありがとうございました。

（砂川小学校 垣見涼太）

○一番心に残ったのはDVDです。手とか足がない人も、目が見えない人もいるけどがんばっていました。私は心の中で「がんばって。がんばって。」と思いました。

（一丘小学校 やすいまお）

○大前さんがテニスをしようと思っていたのに、「テニスなんてできないでしょう。」といわれたことがあるとっていました。すごくさみしいことだと思います。でも大前さんはすごいです。なぜなら障がいと共に生きてテニスをするのはすごいことだし、ぼくにはできません。大前さんは、勇気や強さがあると思います。

（一丘小学校 岡秀明）

編集後記

市民のみなさまのご協力により、今回「きずな」新聞12号を刊行することができました。

泉南市の人権に関する映画会、講演会、その他のイベント等、積極的に参加された方々の感想をいただき、編集委員一同大変喜んでます。「きずな」新聞を通してさまざまな差別がなくなる泉南市をめざして頑張ってもらいますので、今後ともよろしくお願ひします。

（企画委員会 編集委員）



講演会開催にあたりご協力くださいました方々、そして大前さんに厚くお礼申し上げます。
（平成28年度 砂川小学校PTA会長 満壽川 明子）